4年生　健康・生活　高齢社会の授業実践

成合　弘太郎
（東京大学教育学部附属中等教育学校・体育科）

1　健康・生活のカリキュラムについて

本校は6ヶ年一貫教育の中等教育学校に移行したことにより、平成12年から6年間文部科学省の研究開発の指定を受けて「中等教育において、多様な生徒の実態に対応しながら、その教育研究内容の一貫性、継続性を深め、前期課程と後期課程との教育の連携を図る教育課程の柔軟な研究開発を行う。」という研究開発課題のもと実践を進めた。そのなかで、新たな教科「健康・生活科」を立ち上げ、実践を行うに至った。

「健康・生活科」は保健体育の保健分野と技術・家庭の家庭分野を統合したものである。従来行われていた保健、家庭はともに、日常生活に深く結びつき、生涯にわたる実践的な態度の育成を目標としている。そこで、それぞれの教科の特性を尊重しつつ、包括的な教科目標を設定し、この目標に基づき各科目の詳細を決定、実行している。研究開発の指定を受けて、各学年で様々な取り組みが行われ、教科内容の精選や授業形態等の工夫が実施されてきた。現在は、教員の受け持つ学年の関係や打ち合わせ時間の確保が難しいこともあり実施されていないが、2年生では環境問題について保健分野の視点から「環境問題が健康にどのような影響を及ぼすか」。家庭分野では、「家庭で取り組める環境問題対策」という視点で学習を進めた実践もある。保健と家庭の2つの違うアプローチから同じテーマの「環境問題」を取り上げ、探究的な学習や実習実験を進めて発表を行う授業は、実生活の中でどのような問題があり、どのように改善できるのかということを学習した。この実践は、一市民として環境問題がどこに原因があり、自分たちの手で家庭や社会をより良いものにしていくという内容であることから、シティズンシップ教育として実践できる授業であると言える。

4年生の健康・生活の授業は体育科の教員と家庭科の教員がチームチーティングで授業を行い、「自立と共生」をキーワードに周りと協力しながら社会の一員として生活を営む「社会的自立」とは何かを学習するものである。また、「社会的自立」が3つの柱「生活の自立」「経済的自立」「精神的自立」と大きく関わっていることから、それぞれがライフステージのなかで自分の生活にどのような影響を及ぼしているかを学習する。シティズンシップ教育を目標としているわけではないが、社会の一員として生活を営む「社会的自立」を学習するという内容から、シティズンシップ教育と関連の高い内容が多くあるのではないかと考えられる。

以下は今年度実施した年間カリキュラムである。

Ⅰ　ライフプラン
- 自分の一生を考える（ライフプランをたてる）
- ライフプランの重要性（経済計画の重要性）
- ライフステージとその特徴

Ⅱ　青年期の健康
- 心身の発達
- 性行動について（異性による捉え方の違い）

・ 性差（結婚条件からみる考え方の違い）
・ 妊娠（妊婦、周囲の人間ができること）
・ 胎児の成長と出産

Ⅲ　成人期の健康
・ 生活習慣病（原因、症状、予防）
・ 食事と健康（栄養、偏った食生活、中食分析、塩・糖・油の測定、サプリメント）
・ 運動と健康

Ⅳ　高齢期の健康
・高齢社会の現状
・生活設計とリスク
・年金制度

2　高齢社会の授業実践

上記の年間カリキュラムをご覧いただければわかるとおり、4 年生の健康・生活科の授業では、人の一生を各ステージに分けて学習を進めている。Ⅳ期では、「高齢期の健康」というテーマで授業を進めるが、後期課程の 1 年目にあたる 15、16 歳には高齢期の健康に関してはなかなかイメージをつかむことが難しい。日本では各家族化が進み、祖父母と生活を共にしている家庭が少ないのが現状である。そこで、クラスで 4 人グループをつくり、高齢者に対するイメージを書いてもらった。その結果を下に記しておく。

【高齢者のイメージ】 お茶・湯のみ、畳、ゲートボール、年金、テレビで時代劇、同じ話をする、水戸黄門、白髪に紫、ラジオ体操、杖、朝早い、腰が悪い、介護、だまされやすい、ボケている、物知り、あまり眠らない、体が弱い、眼鏡、入れ歯、アクティブ、話したがり、うるさい、歩みが遅い、背が小さい、生活が規則的、骨粗鬆症、尊敬すべき存在、猫背、耳が遠い、孫が好き、金持ち、しわ、パーマ、服がニット・セーター、早寝早起

生徒が思っている高齢者に対するイメージは、どちらかというとネガティブなイメージが多いことが分かる。日本は超高齢社会に突入し、4 人に 1 人が高齢者となっている。そこで、以下のように単元計画を立て、高齢社会の現状を見直すとともに、新たなイメージをもつように考えた。

①高齢社会の現状

〇人口区分について理解する
・高齢者人口、生産年齢人口、年少人口

〇我が国の年齢別の国勢調査による人口、推計人口のグラフを年代別に比較して見る
・1930、1960、1990、2020、2060 年の人口ピラミッドを比較してみる。1930 年では「ピラミッド型」であるが、徐々に形が崩れ、2060 年では下ぼそりした形になり、少子高齢となっている現状を認識する。さらに、今後生産年齢人口にさらに負担がかかるであろうことを予測する。

〇世界の高齢化の推移をグラフから読みとる
・先進国の高齢化の推移のグラフを読み取り、日本の高齢化率が急激に高くなっている現状を理解する。また、先進国のほとんど高齢化率が高まっていることを理解する。
・イギリス、ドイツ、スウェーデン、フランス、アメリカの高齢化率と比較し、日本が短期間で

高齢化率が上がっていることを理解し、他の国が経験したことのないスピードで進んでいることを認識し、日本の高齢化率が世界でトップであることを理解する。

・なぜ、日本の高齢化率が急激に上がったのかを考え、今後どのような問題が起こりえるか考える。

②生活設計とリスク

○公益財団法人生命保険文化センターから講師を招き、「生活設計とリクスの備え」というテーマの授業を行う。ライフイベントにかかる費用やリスクが起きた時にかかる費用などの説明、それに対する備えを社会保険と民間保険の違いなどから説明を行う。

③年金制度

○「生活設計とリスク」で説明のあった社会保険について理解する。

・社会保障制度は主に社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生及び医療であることを理解する。また、それぞれがどのような保障内容であるかを理解する。

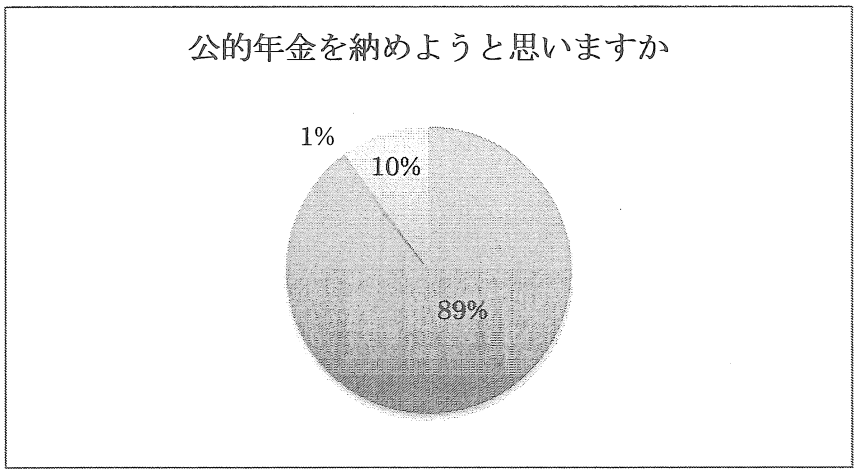
・社会保険が年金保険、医療保険、介護保険、労働者災害補償保険、雇用保険という多くのことを保障することを理解する。(☆生徒は社会保険が年金保険であるということは理解しているものの、その他にもさまざまなことを国が保障していることを理解していないと考えられる。そのため、どのような保障があるかを説明し、理解することが重要であると考える。シティズンシップ教育という観点からも、国や地方自治体がどのような制度で私たち市民を守っているか、そしてこれからどのように自分が携わっていくかを学ぶことが重要である。)

3　授業を終えて

我が国は他の国が経験していないスピードで高齢化率が上昇し、超高齢社会に突入した。よって、授業では高齢社会の現状、日本の高齢化率が急激に上昇したことやその要因、どのような問題がおこりうるだろうかということを考えた。そこには、社会保障制度や個人のリスクなどを考え、個人がどのように今後のライフプランを立てるとよいかを考えさせた。

授業終了後、年金に関してアンケート行った。以下はアンケートの結果である。

（1）あなたは将来、公的年金を納めようと思いますか。



納める 97 名(89%)
納めない 2 名（1%）
わからない 11 名（10%）

「納める」と回答した主な理由（抜粋）

- 納めなければならない義務だから。
- 将来困らないように。
- お金が稼げなくなったら、暮らしていけるだけのお金が欲しいから。
- 老後になにがあるか分からないので安心料というつもりで納めたいと思う。
- 自分がもらえなくても納めなければ今の高齢者の生活が大変になるから。
- 風潮
- なるべくなら納めたい。納められるようになりたい。老後年金で生きていけるようになりたい。
- 65歳から受け取るものを、自分でためるより楽だから。
- 先のことを考えたら納めた方が良いと思うから。
- 公的年金があるほうが、労働しようとも考えるし、自分の将来の保険にもなるから。
- 定期的な収入が欲しいから。
- 納めなければいけないものだと思うし、もしもの時に安心だから。
- 自分の将来の暮らしを支えるなら納めようと思う。
- 義務だし、払わない理由はないかと。
- 老後をより豊かにするため。
- 老後など働けなくなってから心配なので。
- なるべく仕事をしていたいと思うが、高齢になればなるほどお金がかかると思うから。
- 会社に入ってとられる。
- 老後、定年後どうなっているかわからないので。
- 納めなければならないから。国民年金などそれで助かる人がいるから。
- 長生きすれば自分にかえってくるから。
- お金を自分で勝手に貯めようと思っても結局他のことに使って貯められない気がするから。
- 将来が不安だから
- 老後は楽しめる仕事をしつつ、趣味や興味のあることを研究したいから。
- 結婚しないので、自分でなんとかしたいから。
- 国のために。
- 最低限の保険金がほしいから。

「納めない」と回答した主な理由

- もらえるかどうかわからないから。
- そんなに長生きしないと思うから。

「わからない」と回答した主な理由

- あと数年の間にまた公的年金の仕組みの変更がありそうだから。
- 収入しだい。
- 帰ってくるかわからないなら貯金したい。
- 年金制度は現在不安だから。別に自分で貯金しても問題ないと思う。

アンケートの３では「あなたは公的年金や介護保険、健康保険などに何か不安や疑問を感じていますか。」という質問を設けた。以下はその回答の抜粋である。

- 年金がこれからどうなるかわからない。
- 年金などが年をとるにつれて減っていくのではないか？
- 払ってかえってくるかが心配です。
- 財源不足により年金を納めてももらえない。制度そのものが廃止などの可能性が比較的ありそうなのが怖い。
- 年金受給年齢になる前に死ぬんじゃないか。
- 今の人より年金（支給）額が減るかもしれないと思うと不安になる。
- 政治がどうなるのかが全然予想できなくて、そもそも年金っていう制度すらなくなってしまうのではないかと思う。
- 働いても働いても高い税金で手元にお金が残らない？
- 少子高齢化が進むと今のわたしたちが払うお金の負担が増えるのか心配だし、年老いたときにもらえるかが不安。
- 福祉にまわすお金が減らないかどうか心配。
- 目に見えないから不安。
- 信用していない。
- 私たちの世代は納める年金が増えそうなことが心配。負担が増えそう。
- 公的年金は国が破産したらどうなるのか。
- 自分たちの納めるお金は増え、もらえるお金は減るのではないか。
- 難しい話をされてごまかされそう。
- 仕組みが難しいから、若いうちはあまり考えることができないから将来困る人が多いのではないか。
- 公的年金は、昔はしっかりお金がもらえるシステムだったのに、これからどんどんお金のもらえないシステムになっていくのでは。超高齢社会では機能しないと思う。それならそのシステムを権利にしたり、なくしたりと、不安定をなくしてほしい。
- 私は正直、年金はぼったくりだと思っている。現に納めているのにちゃんともらっていない人もたくさんいる訳だから、年金制度はなくてもいい。
- 公的年金に周りの大人がいい反応をせず、話を聞くと不安な印象を受けました。あまり機能していない場合も不安です。
- お金をはらって保険に入っても、早く死んでしまってもとがとれないような気がする。一種のギャンブルのよう。

４　まとめ

健康・生活の教科の立ち上げから 13 年が経ち、各学年で様々な教育実践が行われてきた。4 年生では「自立と共生」をキーワードに人の一生を考え、自分のライフプランを立てる授業を数年展開してきた。現在の日本では、昔に比べると生活スタイルの多様化が見られ、それぞれが独自の計画を立てていく必要性がある。また、平均寿命も伸びてきていることから、高齢期の期間が長くなり、経済、家庭、健康、生きがいなどを見据えて生活プランを考える必要がある。今年の授業では「高齢社会の現状」「生活設計とリスク」「年金制度」を中心に行い学習した。授業後のアンケートでは、公的年金を納めると答えてい

る生徒が約９割にのぼっているものの、年金に対する不安を抱えている生徒は非常に多いということがわかった。今回は、公的年金や社会保障制度の説明を行ってアンケートを行ったが、授業を行ったことで、「年金を納める」と答えた生徒が９割にのぼったのかということを検証すべきであると感じた。授業前のアンケートと授業をうけてからどのように変わるのかを見る必要があると思った。また、この年金制や社会保障制度なども、一市民としてどのようにつなげていくべきか、どのような問題があり、どのように解決していくべきかをもっと考えさせていくことが重要であると思われる。